

「薩長同盟酒」用酒米の栽培体験と薩長学生交流

— '18 長州藩 —

代表者 平岡真大（農学B 3年）
構成員 安西彰宏（農学B 4年） 佐藤綾夏（農学B 4年） 山本千莉（農学B 4年）
本田明梨（農学B 3年）

1. 目的

「薩長同盟酒」プロジェクトでは、酒造好適米「山田錦」や焼酎醸造用サツマイモの栽培方法および日本酒と焼酎の酒造工程を学ぶこと、鹿児島大学の学生と作物栽培を通して交流することの2つを目的とする。このプロジェクトは、山口市と鹿児島市が進める明治150年記念プロジェクトの一環として昨年度から行われている。本プロジェクト代表者の山本は昨年度このプロジェクトに参加し、鹿児島大学を訪れ酒米栽培や現地交流を体験した。そこで、「薩長同盟酒」プロジェクトにおもしろプロジェクトとして参加し、山口大学側の参加者を増やし、酒米の栽培管理を通して農業を考え、経験する人の輪を広げようと考えた。

2. 本プロジェクトの目的と目標

「鹿児島県における酒造好適米【山田錦】の栽培」と「農業を通じた山口大学と鹿児島大学の交流」をメインとし、最終的な目標として、山口県と同等品質以上の酒米(山田錦)を鹿児島県でも栽培する。苗の栽植密度を調整し、昨年度よりも品質が高い酒米を栽培する。それと同時に、山口大学と鹿児島大学、小学生やJAの方々を始めとした地元住民との交流を行う。

3. 活動報告

3-1 山田錦田植え作業（6月30日）

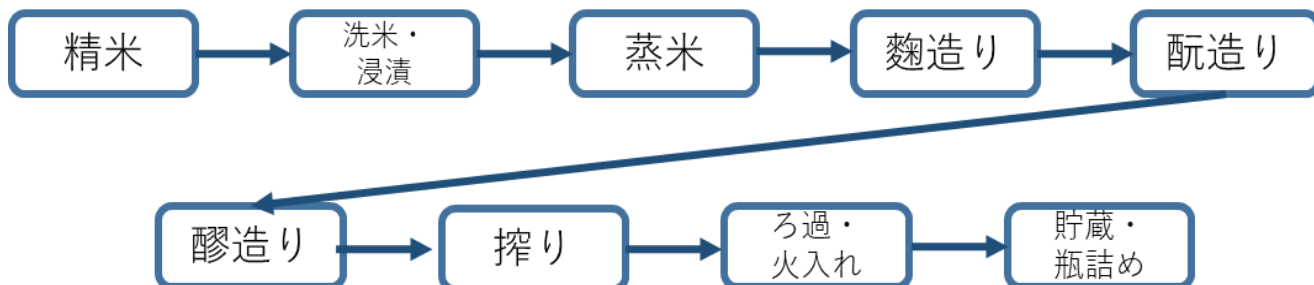
鹿児島県の山田錦の圃場実際に山口大学から学生5名が鹿児島大学の学生総勢20名程度で圃場に手植えでの移植作業をおこなった。また、薩長学生交流についても田植え作業を通して学生間でのコミュニケーションをとることができた。そして、「薩長同盟を結ぶ」という歴史は、物理的にもとても大変なことであり、すごい出来事でもあることが実感できた。現代の交通手段を利用して遠方同士で交流し、同じ目標を持っている現在、とても有意義な時間を過ごすことが両大学間で共有できた。



田植え時の様子

3-2 日本酒についての勉強会&試飲会（9月25日）

農学部附属農場の実習棟にて日本酒の原料となる酒米の栽培から製造、そして日本酒のラベルについての、発表会と山口県の日本酒の飲み比べを行った。この発表会は、7月、8月と構成員が調べ学習や山口県産業技術センターへの見学を行い、醸造についての質問や見学を行った。その中で、日本酒の工程やラベルの表示、さらには香りについて調べ、勉強会で発表した。試飲会では甘口・辛口の山口県内の日本酒を用意し、におい等で判断できるかについても考えてもらい、日本酒について親しみをもってもらった。



【日本酒の製造工程】
(発表の一部抜粋内容)



勉強会の様子

3-3 鹿児島県の山田錦圃場にての収穫（10月21日）

6月に田植え作業を行った圃場に再度赴き、山口大学学生4名と鹿児島大学の学生10名ほどで山田錦の収穫作業を行った。天候にも恵まれ収穫作業はスムーズに行われた。今年は台風が鹿児島県を通過する回数が多く、倒伏した箇所があったが、なんとか収穫することができた。山口ではあまり経験することが少ない倒伏した際の稲の刈り取り方法についても学ぶことができた。



収穫前の圃場状況



収穫作業の様子

4. 終わりに

今回の山田錦の栽培では、倒伏のリスクを抑えるために施肥などに注意したが、台風などの気象災害により倒伏した箇所が現れた。一年間の酒米品種（山田錦）の栽培を通じて酒米品種の栽培の難しさが学べ、当初の目標である「酒造好適米「山田錦」の栽培方法および日本酒の酒造工程を学ぶこと」については、多いに学べたと思う。